

東日本大震災支援の取り組み

～ボランティア活動～

3月31日の第1陣派遣開始から続いてきた連合の災害救援ボランティア派遣は、いったん終了となりました。約6カ月の間に派遣されたのべ活動人数は34,549人を数え、自衛隊に次ぐ規模の活動となりました。連合群馬からも労福協を含め100人以上を派遣するとともに、各産別からも多くの組合員が参加しました。

連合群馬は連合関東ブロックの一員として、連合ボランティアの受け入れ施設である、岩手県一関市に設置した、ベースキャンプの運営スタッフとして副事務局長を派遣するとともに、7月31日から9月24日までは、執行委員産別から毎週各3名（合計44名）を派遣し、陸前高田や大船渡での復旧作業に取り組みました。



ボランティア第24陣の隊員が参加した感謝の集い

連合群馬からボランティア隊を派遣していたベースキャンプも9月いっぱい閉鎖することとなり9月24日には、最後の連合ボランティア隊となった第24陣の隊員と、地元との交流会および感謝のつどいが開催されました。地元の住民とボランティア隊の全員が大きな輪になって大東音頭を踊り、住民とボランティア隊の絆を深めました。

今後は、被災地のさまざまなニーズを把握しながら、労働組合の持ち味が活かせる取り組みを検討・提起していくこととしています。

～復興支援カンパ活動～

連合群馬および各地協では、東日本大震災の復旧・復興支援カンパを4月から展開し、街頭や駅前、イベント会場などで協力を呼びかけ、継続した取り組みを展開しています。

9月27日は、前橋選出の小川県議、宮田・丸山・角田・藤井市議の協力をいただきベイシア前橋モールで、翌28日は伊勢崎選出の塚越県議、多田市議の協力をいただき、ベイシア伊勢崎西部モールで行いました。これまでのカンパ金の合計は、6,517,522円で連合本部を通じて被災地に届けられています。



ベイシア前橋モールにて



ベイシア伊勢崎西部モールにて

北方四島の返還を！ 平和行動in根室へ参加

9月9日～12日、平和行動in根室が行われ、産別、地協、事務局の10名が参加しました。

北方四島シンポジウム、北方四島学習会、平和ノサップ集会へ参加しました。

北方四島は1945年にソ連軍（現ロシア軍）により不法占拠され、日本人が住めない島になってしまったこと、半世紀を経過しても未だ返還されることもなく現在は島全体の開発が進み、スーパーや施設も増え、荒れ果てた島は住みやすい島へと変わってきたことなどを学びました。

北方領土返還は、国全体で取り組む重要な課題となっていることなどを改めて確認しました。



元島民の話を聞いて、現地の状況を把握した参加者